

策定委員会意見のまとめと対応について

		意見	対応
1		プラン内に「外国人児童・生徒の母語支援」の内容を組み込む。そうでないと、時代遅れのプランになるのでは。	<p>P24：2.施策の柱と数値目標の施策の柱1に「外国人児童生徒の日本語学習や母語保持をサポートできる人材の確保・育成に努めます。」との説明を加えます。</p> <p>P26：(2) 日本語学習支援者の確保・育成の主な事業として「多文化共生を推進するキーパーソンの養成」を盛り込み、外国人児童生徒の母語保持をサポートできる人材の養成に努めることとします。</p>
2		外国人児童生徒への母語支援について、母語の遅れについては、両親が努力すべきで市の計画の範囲ではないと思う。教育においても多文化共生とは、多文化のレベルで考えるべきである。日本のレベルや価値観をおしつけるのではなく、各国・各家庭の考え方を尊重すべきです。	令和2年9月に総務省が改訂した「地域における多文化共生推進プラン」において、母語による学習サポート等に触れられており、日本語による学習の効果を高めるとされています。現状では、母語による学習サポートを具体的に実施することは難しい状況ですが、今後、必要性が高まることを想定して、当面は人材育成に努めたいと考えています。
3		外国人児童・生徒とのコミュニケーションが学校では大変である。面談や連絡の手紙など。	就学にかかる資料の多言語化を図るとともに、翻訳や通訳のできる多言語サポーター等を活用するなど、コミュニケーションがとりやすい体制について検討していきます。
4		外国人が情報を入手するとき、QRコードが一番簡単だと思う。 情報の提供場所にも課題があり、外国人に情報が伝わっていない。 (情報の入手先が分からない)	分かりやすい情報提供の手法や提供場所については、QRコードの活用を含め、関係課と検討していきます。
5	P21	外国人市民の学習ニーズに応じて安定的な日本語教室を開催するのに、現在の日本語ボランティア養成講座だけでは不十分。多様なニーズに応えられる学習の場の提供が必要。一方的に手をさしのべるのではなく、学習の場を提供することで、外国人市民も自ら多文化共生を理解しやすくなるだろう。	人材育成や学習の場の提供については、日本語教室を行っているボランティア団体などと連携して取り組んでいきたいと考えています。
6	P26	【施策1：1-1-3】「日本語指導教員の配置」に加えて、市主催の研修を実施することもご検討いただきたい。	日本語教育及び指導にかかる資料の整備など、教育委員会とも情報を共有しながら、研修会等の開催についても検討していきます。

7	P26	<p>施策1「学習支援と円滑なコミュニケーション」について、子どもへの支援が中心になっているようだが、親子の共通言語を持つために、親への支援も含める必要がある。そのために、日本の文化や慣習の習得機会の提供をはじめ、日本語学習への支援や母語支援が必要ではないか。</p>	<p>親子で日本語教室に通える機会の提供や、翻訳や通訳のできる多言語サポーター等の活用、イベント等で日本の文化や慣習に触れる機会を設けるなど、親子が円滑にコミュニケーションのとれる施策について検討していきます。</p>
8	P27	<p>【施策1：1-2-5】「情報提供ガイドラインの策定」について 庁内の検討委員会では、課長クラスが集まったようである。広報課（担当課）のみで検討しても意味がないのではないか。</p>	<p>ガイドラインの策定については庁内で検討を進め、最終的には全職員が共通認識を持つよう取り組みます。</p>
9	P28	<p>【施策1：2-2-2】「やさしい日本語講座の開催」は、市民向けにも実施してほしい。</p>	<p>機会をとらえて市民向けの講座が実施できるよう検討します。</p>
10	P29	<p>【施策2：1-1-3】「多文化共生を推進するキーパーソンの養成」について 多文化キーパーソンについては県でも実施していますが、具体性がなくあまり機能していないように思う。名称や役割をわかりやすくしてほしい。</p>	<p>市内では国籍ごとにコミュニティが形成されているようです。コミュニティに属している方々と連携して地域や日本人市民とをつなぐキーパーソンの養成に努めていきたいと考えています。</p>
11	P24	<p>数値目標について ① 数値目標は必ず入れなければいけないのか。 ⇒ 数値で表すと、大変目につきやすく、プランを代表している事柄のように感じる。また、プランを見た人は、八潮市は多文化共生関連イベント（国際交流まつりのようなイメージ）への参加者数が増えれば多文化共生が達成したと考えているんだと思ってしまうようで、非常に残念に感じる（「達成可能な数値を安易に示した」という誤解がおこるようでしたら、数値は示さない方がいいのではないのでしょうか）。</p>	<p>① 現在、日本語学習の支援などは、どこの自治体でもボランティアが中心となっており、人材の確保・育成が課題となっています。また、多文化共生の考え方についても広く周知されているとは言えず、外国人市民を日本人市民と同じ“いち市民”として認識している市民が少ないのが現状です。 こうした課題もあり、多文化共生社会の実現に向け、多文化共生に関する取組みに興味や関心を持つ市民を増やしていく必要があると考え、3つの数値目標を掲げたものです。</p>

	<p>② 数値目標は施策の柱と対応しているのか。</p> <p>⇒ 数値目標の順番に意味がないのであれば多言語サポーターと日本語ボランティアの順番を入れ替えたらどうか（多言語サポーターは施策の柱2、日本語ボランティア養成講座は施策の柱1に対応しているといえるため）。</p> <p>また、数値目標を盛り込むのであれば、何らかの説明が必要ではないか。</p>	<p>② 数値目標については、施策の柱に対応したものではありませんが、今後行うパブリックコメント等で同様のご意見をいただくことも考えられるため、多言語サポーターと日本語ボランティアの順番を入れ替えます。</p> <p>また、数値目標に「国籍を問わず多文化共生について興味・関心を持つ市民等を増やすとともに、行政において各種の事業に取り組み、市民と行政との協働で多文化共生を推進するため数値目標を定めています」との説明を加えます。</p>
--	--	--